『幼児の教育』誌に見る幼児期の科学教育に関する記事

瀧川光治

お茶の水女子大学附属図書館のWEBサイト内の「お茶の水女子大学教育・研究成果コレクション」のTeapot（略称Teapot）にてバックナンバーインタラネット公開中。
URL: http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/

このたび『幼児の教育』誌がデータベース化され、誰もが手近にキーワード検索できるようになったということは、大変喜ばしいことだと感じています。私は十年ほど前から、日本の幼児教育、保育の歴史について、科学教育的な側面がどのように議論されているかを備味している。ところが、筆者の読書に際しては、月刊誌『幼児の教育』に見られる幼児期の自然科学観の変遷（九九年）の科学教育史（十五年戦争下の記事を中心として）の保育史の視点から（元々二〇〇三年）
このたび、本誌の執筆依頼を受け、私の興味のある人物名やキーワードで検索してみました。その結果を踏まえてここではこのデータベース執筆時一九五二年まで公開について述べてみたいと思います。

▼「堀七歳」

戦前本誌の編集主幹を六年間担った人物

はずは、本誌ともかわりの深い堀七歳（ほりしぶ）です。一八九六年から一九三〇年までて丸六年間、東京女子高等師範学校附属幼稚園主事として活躍し、同時に日本幼稚園協会主幹及び本誌の編集主幹を担った人物です。また、理科教育界においては、戦前を代表する理科教育学者として知られ、「子どもの疑問」の一つ意味を探り、それを基盤とした理科教授法に着手した人物です。保育・幼児教育史の分野におけ

小林（一九九九年）のように、筆者のものの以外はほとんど注目されていないうのです。この機会に理系の幼稚園主事として活躍した人物を紹介したいと思います。

最初に「堀七歳」として活躍した人物を紹介したいと思います。

PDFファイルで紙面を確認してみる結果リストがよう見ると、一〇〇件以上もヒット。結果リストをよく見ると、「蔵」ではなく、「蔵」となっており、クリックして、「蔵」と表記されているのが見つかりました。堀の自伝で「蔵」と表記されていることが分かりました。PDFファイルで紙面を確認してみると、確かに「蔵」と表記されていることが分かりました。PDFファイルで紙面を確認してみると、確かに「蔵」と表記されていることが分かりました。PDFファイルで紙面を確認してみると、確かに「蔵」と表記されていることが分かりました。PDFファイルで紙面を確認してみると、確かに「蔵」と表記されていることが分かりました。PDFファイルで紙面を確認してみると、確かに「蔵」と表記されていることが分かりました。
は、一九九年一月号（第一九巻第一号）の「冬の自然」が最初で、一九五二年一月号（第五一巻第一号）の「就学前の教育」が最後となっています。それらの三十三年間に、三編トモの記事を執筆していながら、誰にでも出来る活動（一）～（四）といつか保育者向けの自然や理科の説明記事をはじめて、「幼稚園に於ける観察」（二）、「その二」、「観察の方法」（二）～（四）～（四）にかけたりば連載記事や、在外研究で一年間海外に於ける観察を元にした「私の観察した米国の幼稚園」や、園の附属幼稚園主事時代の功績としては、自伝にとどまる「幼稚園○幼稚園令施行規則」の制定に参画し、趣旨・精神の徹底に努力したこと、全国幼稚園の設備改善に寄与したこと、わくのぼり（ジャングル・ジム）を新案したことなどが述べられている。一九六六年四月（二七年四月までの一九六年）定じゅうの一九六年四月（二七年四月までの一九六年）理系出身の幼稚園主事としての特別な使命を抱いて文部省の在外研究員として欧米の教育事情の視察を行ったことが述べられています。さらに、現在のお茶の水女子大学附属幼稚園は、現園長に一九六三年に移転していますが、それは創立当時の園舎は関東大震災で消失してしまったからです。そのため、園舎は旧伝中は仮園舎で保育が行われていましたが、附属小学校主事に転任後においても、その移転先の園舎設計にはばかかわっていることをも述べられています。

そのような視点で検索結果リストを見ると、主事としての現場研究とともに海外保育事情などのホットな情報提供や、理系出身者としての保育項目（観察）にかかわる説明記事を多く本誌に提供しております。そうかかわる説明記事を多く本誌に提供しております。